



令和 6 年 7 月 31 日

国土政策局地方政策課

“地域活性化へ” 官民連携基盤整備の支援事業を決定
～民間と自治体が連携して取り組むインフラ整備の事業化検討を支援します～

国土交通省は、「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業（官民連携基盤整備推進調査費）」の令和6年度 第2回配分として、地方公共団体が実施する6件の調査（道路・都市公園）の支援を決定しました。

本事業は、民間の設備投資等と一体的に計画される地方公共団体のインフラ整備（道路・河川・都市公園・市街地整備・港湾・空港等）の事業化検討を支援するための制度です。

配分先：地方公共団体

補助率：1 / 2 以内

【添付資料】

- ・ 別添 1 令和 6 年度第 2 回実施事業一覧
- ・ 別添 2 令和 6 年度第 2 回実施事業概要（調査計画書（案）の概要）
- ・ 別添 3 官民連携基盤整備推進調査費の制度概要

【その他】

- ・ 募集情報や過去の実施例等は以下をご覧ください。

国土交通省 HP「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業」

(<https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kanminrenkei.html>)

【問合せ先】

国土政策局地方政策課調整室

専門調査官 雪丸

主査 山城、藤井

代表：03-5253-8111（内線 29-914、29-916、29-924）

直通：03-5253-8360

令和6年度 官民連携基盤整備推進調査費 第2回実施事業一覧

別添1

調査名		実施主体	対象地域	概要	実施計画額（千円）	
					事業費	国費
1	水沢公園における賑わい創出のための基盤整備検討調査	奥州市	岩手県奥州市	水沢公園は、奥州市の中心市街地に位置し日本で最初期に整備された由緒ある公園であり、桜の名勝としても知られ、毎年桜まつりが実施されている。一方で、公園施設全体の老朽化による魅力低下、来場者数減少が課題となっており、課題解決および市の賑わい創出の拠点とするため、公園の再整備を行うこととし、再整備に係る需要予測や整備効果の検討、概略設計およびPPP/PFI導入可能性検討を行う。	16,200	8,100
2	道の駅「海の京都宮津」再整備によるエリア活性化のための基盤整備検討調査	宮津市	京都府宮津市	道の駅「海の京都宮津」は、宮津市の市街地かつ市内で最も賑わいのある「浜町エリア」に位置し、近隣施設を含めたウォーターフロントエリアとして、市の賑わい創出の拠点となることを期待されている。一方で、宮津市への観光入込客数に対して、施設規模を要因とした道の駅への来客者数の伸び悩みが課題となっており、課題解決のために民間事業者によるパーク&クルーズ、農産物提供の拡充と合わせて、道の駅再整備に係る基礎調査や概略設計、整備効果検討およびPPP/PFI導入可能性検討を行う。	25,000	12,500
3	生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	生駒市	奈良県生駒市	奈良県と大阪府の県境に位置する生駒山麓公園は、市街地の近くにありながら、豊かな自然に囲まれ、また、市外からの利用も見込める側面があるとともに、園内には多様な施設を有しており、年代を問わず多くの利用者が訪れる公園となっている。一方で、コロナ禍以降の利用者減少や開設から30年以上経過し様々な施設の老朽化などが課題となっており、かつて以上の賑わいある魅力的な公園とするため、再整備に係る基礎調査や概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	22,900	11,450
4	田野町道の駅「田野駅屋」再整備のための基盤整備検討調査	田野町	高知県田野町	田野町唯一の道の駅であり、国道55号沿いかつ田野駅と一体化した構造であることから、年間の来客者数は20万人を超える道の駅である。現在、道の駅付近に阿南安芸自動車道の整備が進められており、今後さらなる需要が見込まれることから、道の駅再整備による施設拡張を行うため、再整備に係る基礎調査や概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	17,200	8,600
5	国見台公園総合整備における賑わい創出のための基盤整備検討調査	伊万里市	佐賀県伊万里市	国見台公園は、伊万里市の中央部に位置する公園であり、市のスポーツ拠点となっている。一方で、体育館及び武道館は供用から50年前後経過しており、老朽化が課題となっている。また、公園内においては、ウォーキング及びジョギングを目的とした地域住民の利用も多く、駐車場の不足や公園内外のアクセス性に課題があるため、民間事業者によるイベントの開催に合わせ、体育館及び武道館の再整備を核とした公園全体の再整備に係る概略設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	46,000	23,000
6	宮津地区における道の駅再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	上天草市	熊本県上天草市	道の駅「上天草さんば一」は、多数の観光地を有する宮津地区に位置し、天草地域の玄関口として市内外問わず利用者の多い道の駅である。一方、施設内の休憩施設はレストランのみであり、海沿いの立地であることも活かしていないことが課題となっており、その解決に向けて道の駅再整備のための基礎調査や概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	16,200	8,100
計6箇所					143,500	71,750

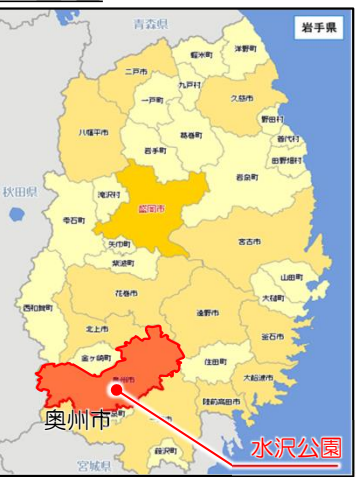
水沢公園における賑わい創出のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

○水沢公園は、奥州市の中心市街地に位置し、1877（明治10）年に戸長（明治前期の行政事務責任者）小岩昌（さかり）等により提唱され、造園には旅絵師で造園家でもあった蓼虫山人（みのむしさんじん）が携わった、日本最初期の公園である太政官布達公園となった由緒ある施設である。また、桜の名勝としても知られ、岩手県天然記念物のヒガン系桜をはじめとした約400本の桜開花に合わせ、毎年桜まつりが実施されている。他にも本市の三偉人（高野長英、後藤新平、斎藤實）の銅像、著名人（芭蕉、正岡子規など）の歌碑など、歴史を物語る資源が園内のいたる所に配置されている。

○一方で、公園施設全体の老朽化による魅力低下、および来場者数減少が課題となっており、市が目指す賑わい創出の拠点となるように、再整備が必要となっている。

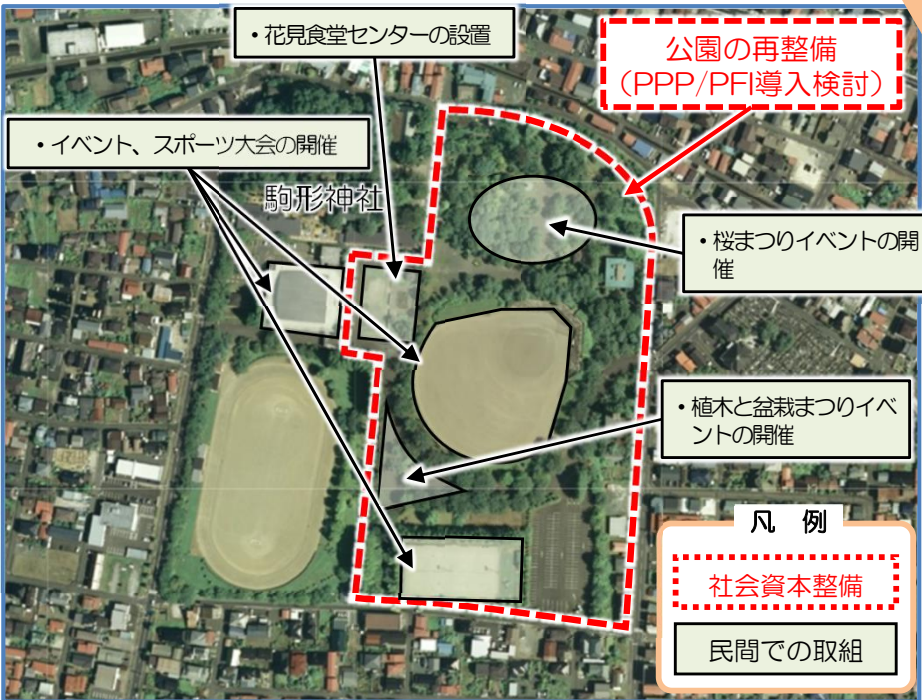
【調査箇所：岩手県奥州市】
位置図



現況写真



- (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- 平成30年 水沢公園再整備構想を作成
 - 令和3年 公園施設の個別計画を作成
 - 水沢公園の改修スケジュールを公表
 - 令和4年 都市計画マスタープランの検証
 - 水沢公園を含む大規模公園の改修を明示
 - 令和5年 奥州市立地適正化計画を作成
 - 水沢公園再整備を賑わい創出施策に位置づけ



- (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- 民間食堂事業者による花見食堂センターを設置(令和12年度～)
 - 地元観光物産協会による公園桜まつりの開催(令和12年度～)
 - 緑化振興団体による緑を愛する植木と盆栽まつりの開催(令和12年度～)
 - スポーツ団体によるイベント・大会の開催(令和12年度～)
 - バス会社によるバス路線の見直し(令和12年度～)
 - PPP/PFI事業者による公園再整備および管理運営(令和12年度～)

- (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- 施設全体が老朽化しており、公園の魅力が低下している。
 - 賑わい創出の拠点となるためには、公園の再整備が必要。

- (4) 【調査内容】
- ①公園の再整備（遊具・園路・トイレ・駐車場）に係る需要予測、整備効果の検討、概略設計
 - ②公園再整備に係るPPP/PFI導入可能性検討

- (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- 民間のノウハウを生かした公園の賑わいを創出
 - 県南地域の先駆けとなるPark-PFI事業を進めることにより地域の知名度を上げ、観光の来訪者増加が見込まれる。

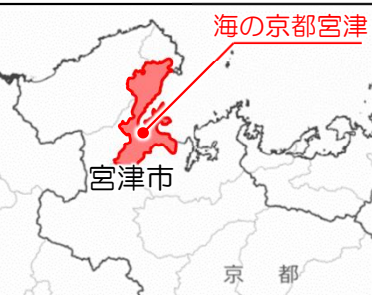
密接な
関連性

道の駅「海の京都宮津」再整備によるエリア活性化のための基盤整備検討調査

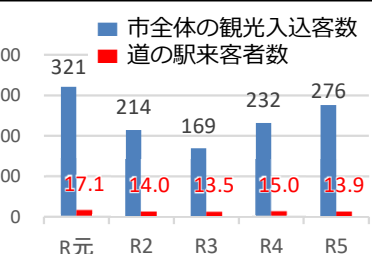
地域の特徴等

- 道の駅「海の京都宮津」は、日本三景天橋立を臨む眺望に優れ、宮津市から大阪市までを結ぶ国道176号への隣接、市街地で最もにぎわいのある「浜町エリア」という好立地に位置し、宮津市としても道の駅をはじめ近隣施設を含めた「ウォーターフロントエリア」としてさらなる活性化を図り、中心市街地のにぎわい創出へ波及させることを目標としている。
- 市の観光入込客数は増える中、道の駅への来客者数は横ばいが続く状況となっており、小規模な施設であることに起因する受入れ機能不足、立地のポテンシャルを生かせていないことによる道の駅への来客者数の伸び悩みが課題となっている。
- 近年、近隣の開発も進んでいることから、市の目標達成に向けた早期の再整備が求められている。

【調査箇所：京都府宮津市】
位置図



市・道の駅入込客数（万人）



現況写真



(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・市・海の京都DMO・交通事業者が連携した天橋立観光船と立体駐車場を活用した天橋立パーク&クルーズ機能の拡充（令和11年度～）
- ・地元生産者組合による農産物提供の拡充（令和11年度～）
- ・PPP/PFI事業者による道の駅の整備・管理運営、集客イベントやキッチンカー誘致（令和11年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・施設規模に起因する物販や飲食等の受け入れ機能が不足しており、市全体の観光入込客が増える中、道の駅への来客者数の伸び悩みが課題
- ・道の駅の拡張とともに、公園エリアとの一体的な活用による利便性の向上と、機能性の向上が必要

(4) 【調査内容】

- ① 道の駅再整備に係る需要予測、概略設計、整備効果検討
- ② 道の駅再整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

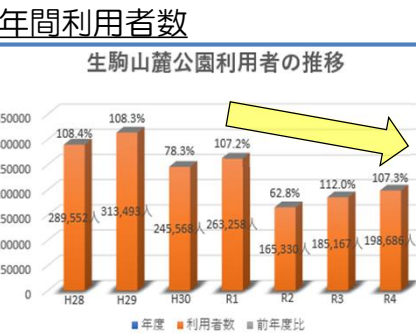
- ・PPP/PFI事業者の道の駅の整備・管理運営ノウハウ等を活かした来客者数、売上高の増
- ・道の駅来客者の回遊による中心市街地のにぎわい創出
- ・海の京都観光のゲートウェイとして、海上交通を活用した天橋立周遊観光ルートの構築、定着

生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

○生駒山麓公園は、奈良県と大阪府の県境に位置し、金剛生駒紀泉国定公園の緑豊かな自然に囲まれ、公園内にはキャンプ場をはじめ、フィールドアスレチックや大型遊具施設があり、また園内のいたる所で年間を通して開かれる様々なイベントや、露天風呂付の宿泊施設もあって、年代問わず多くの利用者が訪れる公園である。

○一方で、コロナ禍以降の利用者数減少が課題となっているため、かつて以上の賑わいある公園への変貌を目的とし、メインターゲットであるファミリー層にとって、非日常が味わえ1日過ごせる施設・空間づくりや子供の成長に繋がる学びと体験が可能な施設とするため、公園施設の再整備を図る。



- (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- 令和3年6月 都市計画マスタープラン改訂
→生駒山麓公園の活性化を位置付け
 - 令和6年3月 第6次総合計画第2期基本計画策定
→市内の公園を、交流・滞在の場として活用可能な空間となるように整備することを明記
 - 令和6年5月 第6次総合計画第2期計画アクションプラン
→生駒山麓公園のあり方検討のスケジュールを公表

- (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- 民間事業者による宿泊施設のリノベーション（令和7年度～）
 - 民間事業者によるアスレチック施設の新設（令和7年度～）、イベントの実施（令和10年度～）
 - 民間事業者によるイベント開催（令和10年度～）
 - 社会福祉法人によるイベント実施（令和10年度～）
 - PPP/PFIによる公園の再整備・運営、イベントの開催（令和10年度～）



- (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- 公園の来場者数減少が課題となっており、課題解決のため公園の再整備が必要

- (4) 【調査内容】
- ①公園の再整備（施設・園路・駐車場・遊歩道）に係る基礎調査（需要調査）・概略設計
 - ②公園の整備に係るPPP/PFI導入可能性検討

- (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- 民間活力を導入した収益施設と一体的に公園を再整備することにより、公園の魅力向上につながり、利用者の増加や消費の拡大が期待される。

田野町道の駅「田野駅屋」再整備のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 道の駅「田野駅屋」は、町内唯一の道の駅であり、県内交通の大動脈である国道55号沿いに位置し、「土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線」田野駅が隣接しており、道の駅と一体化している構造であることから、来場者数は年間20万人を超える。
- また、阿南安芸自動車道の整備が進んでおり、田野町への新IC整備が確定していることから、今後さらなる増客が見込まれている。
- 一方、現況の道の駅自体は、利用者数に対して施設面積と駐車場がともに不足している状況であり、今後の入込客数増加対策および利便性向上のため、早期の再整備が求められている。

【調査箇所：高知県田野町】



(1)社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- 令和2年度 田野町総合計画・総合戦略に道の駅田野駅屋の交流拠点機能強化として位置づけ。（H28年度～阿南安芸自動車道 奈半利～安芸 計画段階評価手続き）
- 令和4年度 道の駅「田野駅屋」基本構想の策定
- 令和6年度 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画の策定
- 令和6年度 阿南安芸自動車道の新IC計画が公表

(2)民間事業者の活動・新たな投資・予定

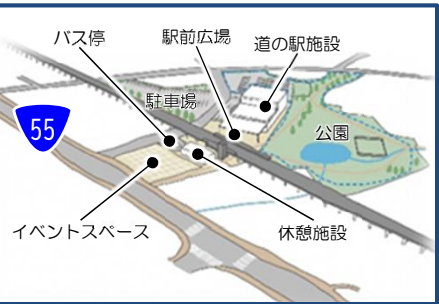
- 地元商工業団体による集客イベントの開催（令和10年度～）
- 地元の高校生による新商品の開発・販売（令和10年度～）
- 鉄道会社による交通結節点化（令和10年度～）
- PFI事業による道の駅の再整備および管理運営、イベント（フリーマーケット、マルシェ）の開催（令和10年度～）

密接な
関連性

道の駅来場状況（R6.6月平日）



整備イメージ



(3)基盤整備の必要性（現状の課題等）

- 現状の利用者数に対して施設面積と駐車場が狭く、来訪者の受け入れ能力が不足している。
- 今後高規格道路が接続されることから、さらなる入込客数が見込まれ、施設の再整備が必要となっている。

(4)【調査内容】

- ①道の駅再整備にかかる基礎調査（需要予測、内水解析）、概略設計
- ②道の駅再整備及び管理運営にかかるPFI導入可能性検討

(5)民間の活動と一体的に整備する効果

- 道の駅の再整備と民間事業者のサービス提供による、道の駅利用者数及び売上高の増加
- 民間事業者による定期的なイベントの実施により交流人口の増加

国見台公園総合整備における賑わい創出のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 伊万里市の中央部に位置する国見台公園は、市の基幹公園として位置づけられ、野球や陸上などの屋外競技、バレーボール、剣道などといった屋内競技まで、多様なスポーツが楽しめる市内のスポーツ拠点である。
- 昭和43年の公園設置以降、伊万里市民納涼花火大会をはじめ、市内の主要なイベントや国見台陸上競技選手権大会、伊万里ウオークの会場として利用されてきた。
- 一方で、供用から50年以上が経過したことによる老朽化が課題となっており、特に体育館と武道館は早期の再整備が必要となっている。
- また、健康づくりの場として、地域住民の利用が多く見られる中、駐車場の不足や公園内外のアクセスが課題となっているため、園路や管理道路も含めた公園全体のリニューアルを実施することにより、公園の魅力を向上させるとともに賑わいを創出する。

【調査箇所：佐賀県伊万里市】

位置図



駐車場不足状況



体育館の状況

(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・ R2年度 公共建築物個別施設計画の策定
- ・ R4年度 伊万里の公園の再生と利活用方針の作成
- ・ R4年度 第6次伊万里市総合計画の策定
- ・ R5.12、R6.4 事業検討、事業構想を議会に表明
- ・ R6.6 国見台公園総合整備基本計画の策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・ 市バスケットボール協会、市剣道連盟によるスポーツ大会やスポーツ教室の開催（令和11年度～）
- ・ 県内を拠点とするプロスポーツチームによるスポーツ教室の開催（令和11年度～）
- ・ 高等教育機関による商品開発・販売の実施（令和11年度～）
- ・ PPP/PFI事業者による公園管理と運営（令和11年度～）

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・ 体育館、武道館の老朽化が進行している
- ・ 多くの利用者があり、駐車場が不足している
- ・ 市民ニーズが多様化する中、公園の魅力が不足している
- ・ 子育て環境の充実や安心・安全な憩いの場が求められている

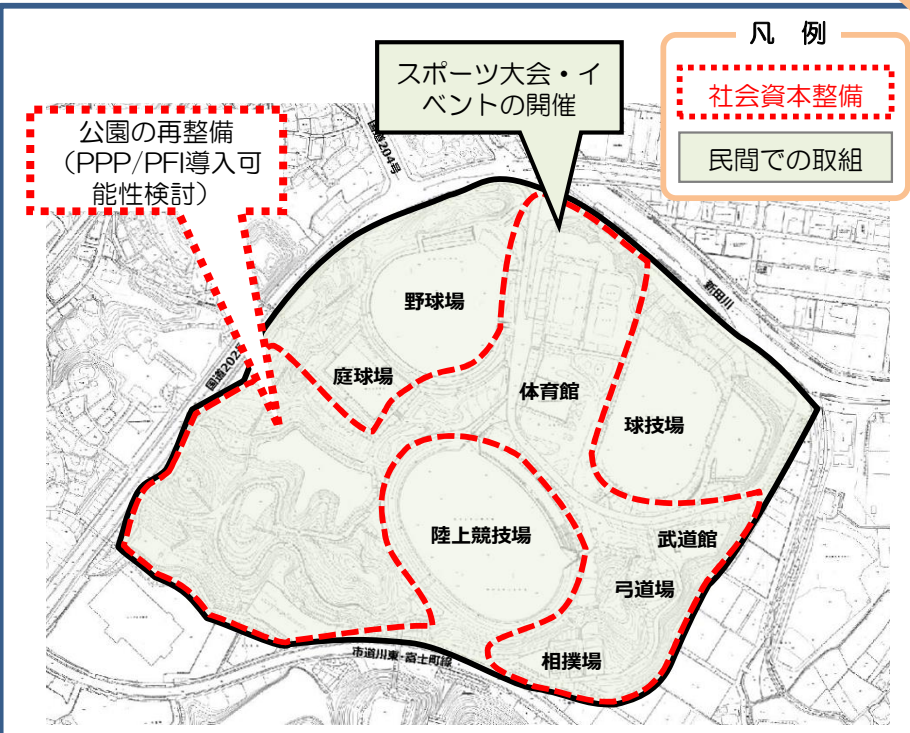
密接な
関連性

(4) 【調査内容】

- ① 公園施設（体育館、駐車場、園路、広場、トイレ、休憩施設、遊具）整備の概略設計
- ② 公園全体の管理・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・ 体育館の機能の充実によるスポーツ大会や多様なイベント開催による賑わい創出
- ・ スポーツ施設利用者、公園利用者の増加、それに伴うアクセス改善や駐車スペースの確保
- ・ 子どもの遊び場や市民の憩いの場の確保

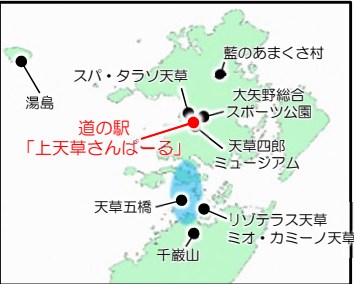


宮津地区における道の駅再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 上天草市は、ほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれ、日本三大松島の一つにあげられる天草松島などの景勝地を有し、周辺自治体と広域観光の連携を進めるなど観光産業も盛んであり、道の駅「上天草さんばーる」は、温泉や資料館および図書館、スポーツ公園が集積する宮津地区に位置し、天草地域の玄関口として、市内外問わず利用者の多い施設である。
- 一方で、施設内に休憩施設となる場所がレストランのみと少なく、海沿いの立地を活かせていないことが課題となっており、観光客の立ち寄り場所としての機能強化が求められている。
- 課題解決に向けて、「道の駅」を再整備し、周辺の施設間の相互利用を促し、地域の回遊性や賑わいを向上させ、天草地域の周遊観光を促進する拠点施設となることが期待されている。

かみあまくさ
【調査箇所：熊本県上天草市】
位置図



現況写真



整備イメージ



- ### (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- ・平成25年 上天草市グランドデザインを策定
 - ・令和3年 宮津地区将来構想を策定
 - ・令和6年3月 上天草市第3次総合計画を策定
→道の駅を核とした宮津地区の整備を位置づけ
 - ・令和6年3月 宮津地区拠点施設整備基本計画を策定

- ### (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- ・農産物販売事業者による直売所の運営(令和11年度～)
 - ・商工団体等によるイベント開催(令和11年度～)
 - ・観光協会による観光情報発信(令和11年度～)
 - ・PPP/PFI事業者による道の駅の整備・運営(令和11年度～)

密接な
関連性

- ### (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- ・熊本天草幹線道路（大矢野道路）が整備されることを見据え、観光客等の道路利用者に対する休憩場所の提供や地域の魅力を効果的に情報発信する体制が必要である。
 - ・幅広い世代の利用促進を図るため、若い世代や子育て世代向けの施設、機能が必要である。

- ### (4) 【調査内容】
- ①道の駅の再整備（駐車場、休憩施設、情報提供施設、地域振興施設、防災施設）に係る基礎調査（需要調査）、概略設計
 - ②道の駅の再整備・管理・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討



- ### 凡 例
- 社会資本整備
 - 民間での取組

- ・直売所の運営
- ・イベントの開催
- ・観光情報発信

- ### (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- ・施設間の相互利用を促し、地域の回遊性や賑わいの向上
 - ・ゲートウェイとして天草地域の観光に関する情報発信を行い、周遊観光の促進による観光客の増加

官民連携基盤整備推進調査費の制度概要

別添3

事業概要

- 各地域の個性や強みを活かした特色ある成長を図るためには、民間の投資効果が最大限に引き出されるよう、民間の設備投資等と一体的に基盤整備を実施することが重要である。
- 官民が連携して実施する民間投資誘発効果の高い基盤整備や広域的な地域戦略に資する事業について、民間の意思決定のタイミングに合わせ、機を逸することなく基盤整備の構想段階から事業実施段階への円滑かつ速やかな移行を図るため、地方公共団体が行う事業化検討に対して調査費補助を行う。

事業内容

【配分先】地方公共団体(都道府県・市町村等)

【補助率】1／2以内

【募集・配分スケジュール】(令和6年)

区分	募集期間	配分時期
第1回	1月24日～2月7日	4月24日
第2回	4月17日～5月31日	7月31日
第3回	6月3日～7月19日	9月上旬以降

【支援内容】

民間事業活動と一体的に行うことにより、優れた効果の発現や効率性が期待できる国土交通省所管の基盤整備※の事業化に向けた検討経費を支援

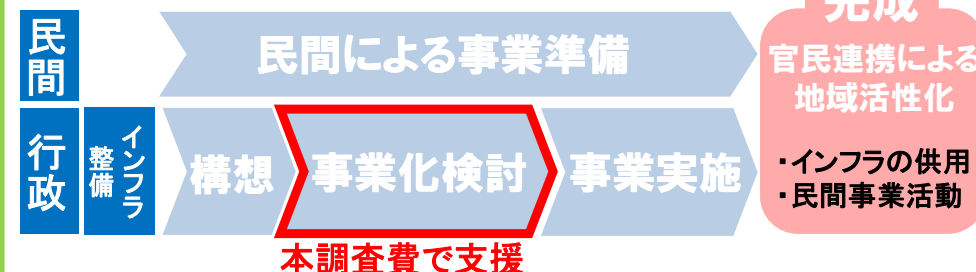
<調査内容>

- ① 施設整備の内容に関する調査
(例) 基礎データ収集、需要予測、概略設計、整備効果検討等
- ② ①で調査した施設の整備・運営手法に関する調査
(例) PPP/PFI手法の選定、官民の業務分担、VFM算定等

※ 道路、海岸、河川、港湾、都市公園、市街地整備、空港等の公共土木施設

事業フロー

■事業化検討段階の調査費補助



主たる支援内容

- **インフラ整備事業の事業化に必要な調査**
基礎データ収集、需要予測、概略設計、整備効果検討 等

+

主たる支援内容に併せて実施可能

- **PPP/PFI導入可能性検討**
PPP/PFI手法の選定、官民の役割分担、VFMの算定 等